



# AA日本ニューズレター

## No.185

### 全国7地域広報担当者によるフォーラム&ワークショップ報告

常任理事会 広報ボランティアスタッフ

第22回AA日本評議会の勧告(議題 No2-8)に基づき、2017年7月8日(土)～9日(日)「国立オリンピック記念 青少年総合センター」にて1泊2日でフォーラム&ワークショップが開催されました。参加者は全7地域から15名(各地域代表1名を含む)、常任理事6名(A類2名を含む)、ゲスト3名、ボランティアスタッフやJSOを合すると総勢31名となりました。

今回の目的は、各地域の広報担当者に集まっていただき、広報活動の方法を学び、経験をじっくりと分かち合っていたく。また、それを地域に持ち帰っていただき、今後の広報活動の促進を図っていただくというものでした。フォーラム&ワークショップ終了後のアンケートでは、新しい視点が提案された、全国の広報の様子が分かった、いままで分らなかった問題が解決したなど、参加者の評価をいただきました。

#### 1、スケジュール

7月8日(土)

～日本全体で助け合い一体性を持って、広報を進めるために～

|         |  |
|---------|--|
| 13時～    | オリエンテーション (趣旨説明、参加者自己紹介)                           |
| 13時半～   | 各地域への事前アンケートの結果報告とアンケートから見る主要課題の確認                 |
| 14時～    | 現在のゼネラルサービスにおける広報の連携について<br>B類常任理事広報担当 増田          |
| 14時半～   | AAで幸せになる3つの方法 A類常任理事 後藤<br>(東京医科歯科大学精神行動医学分野非常勤講師) |
| 15時15分～ | 分かち合い<br>主要課題についての取組み事例や意見の交流                      |
| 19～21時  | 参加者各5分間でのフリートークによる経験の交流                            |

7月9日(日)

～経験の交流とさらなる展開のために～

|         |  |
|---------|--|
| 6時～     | モーニング ミーティング   |
| 9時～10時半 | ワークショップ①<br>ミーティング会場のないエリアに会場を開くには<br>レポーター: モンチッチ(埼玉北地区 熊谷Gr) |
| 11時～    | ワークショップ②<br>医師会との協力関係を作るために<br>金杉クリニック院長 金杉先生                  |
| 13時半～   | フォーラム&ワークショップで得られた方向性のまとめ<br>(地域と常任理事会との広報活動における今後のかわり方の検討)    |
| 15～16時  | 終わりにあたって B類常任理事広報担当 増田<br>&参加者から一言(感想など)                       |

※以降の丸数字は報告事項、アルファベットは分かち合いを示します。

#### 2、要点整理

##### (1) 日本全体で助け合い一体性を持って、広報を進めるために

1日目は後藤理事の話の伺い、アルコール依存症治療を取り巻く現状とAAの課題を学びました。その上で、どうしたら各地域の特性を踏まえ、助け合いながら一体性を持った広報活動を行えるか、各地域を取り巻く環境を考えながら、常任理事会と地域の整合性の取れた広報活動の展開を考えました。フォーラムの性格上答えを求めることなく、共通の方向性を少しでも見出し、常任理事会がどのように協力すればよいか、各地域は何ができるのかを考えていきました。

##### (2) 事前アンケートから分かった課題と展望

今回は論点を整理し、分かち合いの柱立てをするために、各地域には事前アンケートに協力していただきました。そこから見えてきた課題は地域によって温度差はあるものの、7点の共通点が見て取れました。①助け合う中でAAの広報活動の底上げを。②広報を担う仲間の不足と意識的な仲間作り。③広報の大切さについての理解がまだ浸透していない中で。④ノウハウが分からないことによるためらいを乗り越える手立て。⑤平日動けない仲間が多い中で。⑥より困難な地域への広報分野での地域間・ゼネラルサービスとの助け合いの道。⑦関係者との人間関係づくり。

これらのことについての分かち合いの一部を紹介します。(A)パブリックフォーラム後に関係者から声をかけていただくが、広報を担う仲間不足で対応が目一杯になってしまっている。(B)地域の中でも仲間の多いエリアが集中しており大変な面もあるが、いままで広報が進んでいなかったエリアで関係者向けの広報フォーラムを開き始めた。(C)JSOで用意していただいている広報セットの活用を進めている。(D)少ない中で工夫している。いっしょに広報に行った仲間へ広報委員になってもらっている。(E)若い仲間と意識的に広報に行っている。経験から恐れは取り除いていける。(F)3人で毎月30箇所くらい

広報に回っている。少なくともできることはあるのでは。(G) 広報委員会はなくてもメッセージ委員会はある場合が多いので、サービス委員会として広報も担当するようにしている地区もある。(H) イベントに出たいただいた関係者の方との関係を大切に、切らさないようにしている。ラウンドアップのパブリックフォーラム後に、参加された関係者の病院にメッセージに入れるようになったり、保健所の依存症問題の集まりなどにも招いていただいている。(I) 何が知りたいのか、相手のニーズを知ることも大切。広報依頼が増えてきている。(J) 自分ですべてやろうとするのではなく、各グループにお願いしている。仲間がやりやすいように、広報セットと広報先リストを用意して、詳しいマニュアルを渡す工夫をしている。(K) メールを活用している。メールの方がよいと広報先から言われている。(L) 警察・消防・地域包括センターは夜間でも大丈夫。(M) AAの支援者が地域を越えて転居した際はお互いに連絡しあうことが大切。(N) 広報のノウハウの交流が大切。関東甲信越地域広報委員会はHPを持っており、ここに様々な素材が入っているのでご活用下さい。(O) 関係者との懇談会を開いている。フォローして関係を育てることが必要。(P) JSOの役割は情報やノウハウの提供という面もある。(Q) 学会や行政の連絡会などでゼネラルサービスと連係している。(R) 財政面で困難な部分があるのでゼネラルサービスからの支援を検討してほしい。(S) 新しい仲間のために「広報の集い」を開いている。

また、A類常任理事からも次の提案をいただきました。(T) 自助グループの役割を果たす上で、外部から見ればAAは引きこもっているように見える。問題を整理して、次の段階に入ることも大切なのではないか。(U) 精神科だけでなく内科などにもっと広報に行く必要がある。多くのアルコールはここに存在する。「この人にまた会いたいな」と思っていただけよう、メッセージも広報も魅力的である必要がある。自らの回復の姿を見せよう。それが広報になる。(V) 関係者とは顔の見える関係が大切。ネットワークの理解とコーディネーターの存在を見つけることが大切。(W) まだまだ関係者向け広報の域を出ていないのではないか。

### (3) 医療機関への広報をどう進めるか

2日目は医師会や総合病院の地域(医療)連携室、産業医への広報の取り組み方(アプローチの仕方)について考えました。その中で次の事例が報告されました。① 広報セットを地元の医師会に持って行った。イベント案内を医師会にも流した。② 県こころの健康センターの産業医認定講座にスピーカーとしてAAが呼ばれ、開業医や内科医などにAAの紹介をした。

金杉先生のお話から次のアドバイスをいただきました。③ 患者としてお世話になっている医師に紹介していただいて、地元の医師会に広報に行くのがよいのでは。④ 回復の体験談をもっともっと関係者に聴いてもらう努力を。

また、参加した複数の医療関係者からも示唆に富むご意見をいただきました。(A) 脳外科、整形外科、糖尿病専門医などにもアルコールは多い。そこに入り込む突破口をつくるのが大切。(B) どの病院にも地域(医療)連携室(相談室)にワーカーさんがおり、熱心な方

が多いのでそこから。(C) 開業医は地元根ざしており、患者のバックグラウンドを知っていることが多いので、総合病院だけでなくクリニックなども広報対象に。(D) アルコール依存症は回復できないと思っている医療関係者は多いので、回復した自分の姿を退院した病院に見せに行くことが大切。(E) アルコホリック自身が引け目を持っている。アルコール依存症は病気のひとつであり、その引け目を乗り越えることが大切。

### (4) ミーティング会場のないエリアに会場を開くには

1975年に2グループから出発した埼玉県のAAが、現在3地区30グループ、67ミーティングになるまでの要因を事例として提供していただき、分かち合いをしました。その中で見えてきた糸口として3点。① 足を使いメッセージを運び、病院を退院した仲間が地元グループを作っていた。② 熱心な関係者の後押しでミーティング会場を開けた。③ 意識的に空白エリアに会場を開くようにグループ・地区・地域で動いていった。

各地域からは、困難な状況の中で様々な工夫をされていることが報告されました。④ 同じ地域でも都市と地方の格差が大きいので、定期的に地方のミーティングに参加するようにしている。⑤ 空白エリアの行政のイベントに参加するようにしている。⑥ 女性が昼間のミーティングを開いた。多様な時間帯のミーティングが求められているのでは? ⑦ 継続的なサポートが大切。作っただけでは厳しい。⑧ 意識的に空白エリアに地域のイベント開催地を選び、開催後に会場を新設していった。⑨ 地域を越えて応援に入っていた。⑩ 病院の中にグループを作っている。⑪ 地域の取り巻く土壌を変える努力も必要。アルコール依存症が回復できる病気であることをもっと知っていただく。

### (5) 助け合うことの大切さ

今回のフォーラムの目的のひとつは『助け合う』ということです。このことについても様々な場面で発言がありました。助けを求めやすい雰囲気やAAの中に作るのがまず大切と強調されました。発言のうちのいくつかを。(A) 講演を依頼されているが、他地区の仲間に頼んでいる。(B) 地域の広報委員会が地区をフォローしている。(C) 情報をみんなに伝えるようにし、苦手な部分を補えるようにしている。(D) 地域委員会メンバーが遠隔地のミーティングに参加している。(E) 地区OSMでプログラムから関係者の話はずしそうになった。なぜ関係者の話が必要なのか、しっかり述べ伝えしていく必要がある。(F) 初めてのことはだれでも怖い。広報も練習が必要。経験者の役割。(G) メッセージと合同でフォーラムを開いている。(H) センtralオフィスでの情報の共有をさらに進める。

また、A類常任理事からも次の提案をいただきました。(I) 困ったらみんなで相談しよう。維持するために苦勞するのであれば統廃合も含めて。(J) できることと、できないことをはっきりすることが大切。(K) メンバーの質が昔とは変わってきている、またネット社会で環境も変化している。(L) 様々な時間・場所・種類のミーティングを用意することが必要になってきている。

### 3、自分の地区より小規模の地区が広報をバリバリやっているのに刺激されました。（終了後のアンケートより）

ボランティアスタッフやJSO以外の参加者に終了後のアンケートに協力していただきました。3、～は、その感想のひとつです。他にも参加者の熱い思いが記述されていました。一部ですが紹介します。①96%のアルコールが専門病院以外にいるという衝撃。②仲間に伝えていく方法を学べたことが特にありがたかった。③一步一步。一人ではなく、多くの仲間をもう1人！④まずは足を運ぶ大切さ。⑤専門家協力委員会をそれぞれのレベルで発足させては。⑥必要性を感じた。地域で切実に訴えたい。

また、今回のフォーラム&ワークショップのプログラムについて、全ての方が満足しているとの回答でした。その主な理由として、⑦様々な角度から情報が発信され、新しい視点が提案された。⑧全国の広報の様子が分かった。⑨いままで分からなかった問題が解決した。

会場についても宿泊を含め高い評価がありました。1日半の日程については、ちょうどよかったが90%で、適切であったようです。じっくり課題を学び、分かち合うには、フェローの時間も取れる宿泊を伴うスケジュールがよかったようです。一方で、日程については各地のイベント等に重なってしまい、次回は配慮が必要と思われます。また、学習の要素を取り入れたことについても、やはり全ての参加者がよかったと回答されています。

次回が行われる場合のテーマについて希望は、「専門家協力」「広報活動への支援」「常任理事会、JSOと地域とのさらなる関係」などがあり、いずれにしてもこのような分かち合いの機会を継続する必要性を強調されるご意見が多く寄せられました。

#### 4、最後に

今回の参加者は、評議員を通して各地域から選出していただく方法で募りました。このため、常任理事会から広く事前のお知らせを致しませんでした。この詳細は今後発行する報告書にてAAメンバーに報告する予定であります。また、これとは別に、ゲストスピーカーのお話は次号で詳細を載せていただくよう編集委員会と調整中です。

各地域の担当者みなさま、および短期間にもかかわらず地域のとりまとめをいただいた評議員みなさまに深く感謝いたします。ありがとうございました。

#### ■ JSOより

##### 2015年アメリカ/カナダ評議会の棚卸し

##### 回復・一体性・サービスの80周年を祝うー私たちの未来への礎ー

(box459 summer 2015 より。許可を得て、翻訳し転載)

棚卸しをするということは、その言葉の持つ最も良識的な意味において、AAプログラムの原理的な面なのである。AAの共同創始者のビル・Wが、『AA成年に達する』の中で次のように述べているように。「それぞれのAAメンバーが、自分の良心の棚卸しをし、それののっつって行動することを続けなければならないように、この集まり全体もそうすることが必要なのです。それによって私たちは生き

続けることができ、有効適切にサービスすることができるのです」(『AA成年に達する』P.346) ゼネラルサービスのレベルにおいて棚卸しを行うことも、ソブラエティを共同体のあらゆる場面で維持するために個人が棚卸しを行うことも、自然の成り行きなのである。

しかしながら、評議会の棚卸し計画の初年度である2013年の評議会開会行事での基調スピーチで触れられているように、「評議会の棚卸しとステップにおける個人の棚卸しとは、すっかり同じというわけではない。評議会で強調されるのは、性格上の欠点ではなく、評議会の目的を成し遂げるために有効であるかについてである」

スピーチは次のように続いたのである。「私たちが棚卸しをするのはただ単にそれ自体がよいこと(思いやりや寛容さといったように)だからではない。むしろ、私たちがソブラエティを続けていく上で、大切な要素だからである。同じことが、私たちが着手した評議会の棚卸しにも当てはまるのである。私たちは棚卸しという責任あることを成し遂げることを自慢するためにここに集っているのではない。私たちはアルコールの問題をなんとかしたいと願っている人たちに、どこにしようとするであろうとも、大きな希望のメッセージを届けるというAAの責任を果たす上での一体性と有用性を確実にする役に立つようにここにいるのである」

#### これまでの簡単な経緯

2008年8月常任理事会とAAワールドサービス社およびAAグループバイン社において棚卸しが行われたのに続いて、評議会の棚卸しについての提案を話し合う理事会小委員会が組織された。3年に及ぶ常任理事会と評議会による慎重な議論の末に、2011年評議会の方針・承認委員会において、評議会棚卸し計画委員会によって練り上げられた、評議会全体に対しての包括的計画にそって、評議会が自らの全面的な棚卸しを行うことが提案された。

棚卸しは3年の期間をかけて、AAの12の概念との関わりをなかで、様々な問題について行われることが決定された。1年目の2013年には、評議会と評議会に至る過程について、あらゆる面で話し合いが行われた。検討された主な点は次の通りである:コミュニケーション・テクノロジーの利用・評議会オリエンテーションと準備・評議会参加と時期・情報。

2年目の2014年には様々な付随する問題について話し合われた。焦点を当てたのは次の通りである:言葉の平等性・多様性・評議会議題・評議会期間・評議会テーマ・コミュニケーション。

#### 3年目ー棚卸しは続く

3年目には予定されていた範囲を越えて、評議会の慣例や手続きに関係した重要な多くの問題が明らかにされた。

ともに信じ信頼を高める:理事と評議会のよりバランスのとれた協働を生み出す3つの観点・領域が明らかにされた。(a)期間を通じて完全な参加を保障するために、可能な限り事前に議題を明確にすること。(b)年間を通じて評議会に至る過程において、理事と評議会委員会は十分に連絡を取り合い続けること。(c)議案そのものに関して評議員からの情報をよりいっそう深めること。

共同体をひきつける:評議会についての適切で継続的な情報で

共同体をひきつけることは目新しいことではない。多くのレポーターはAAメンバー個人と評議会そのものとのギャップが続いていることを認めた。ふつうのAAメンバーが評議会に参加することを妨げているのは、「評議会は複雑で大変」という考えであるとするレポーターは指摘した。「私たちは評議会のプロセスにおいて、コミュニケーションを単純にできるだろうか？言葉を分かりやすくする術を見出そうではないか」

**メッセージを多様な方法で運び、社会を変えよう:**真に共同体の代表であるためには、評議会と理事会はあらゆる年齢・人種・収入・学歴・言語、そして特別な配慮が必要なメンバー、様々な職業的背景を持つ仲間を手を差し伸べることによって多様性を保ち続ける必要がある。「多様性は一対一の関係から始まる」とあるレポーターは発言していた。「私たちは完全な参加によるピラミッドの頂点なしには、民主的な組織を持つことはできないのである」

**コミュニケーションを改善する:**多くのレポーターによって指摘された共通点のひとつは、十分なコミュニケーションのための根本である、他人の話に耳を傾けることの重要性である。あるレポーターが語ったように、「私たちはAAの厳格さに夢中にもなりえる。しかし、もし耳を傾けるといふ気持ちによって動機づけがされたならば、私たちのグループの良心は最適な決定を行うことになるのである」

**未来を見据えて:**いまや棚卸しが終わったのだから、評議会は「概念」が共同体全体に対してより身近なものになるようにという視点で、「概念」に対しても長い目でアプローチすることが提案されている。

#### 結論 — 「愛とサービスの結びついた輪」

すべての活動において、評議会はAAのサービス・ステップ・伝統の守り手として最大限有用であるように、そして全体としての共同体の声と良心になるように努力している。予定された通り、評議会の棚卸しは3回の評議会に渡って行われ、終わりを迎えた。

2015年の評議会での報告『棚卸しー前に進むために後ろを振り返る』で、南インディアナ州選出の評議員キャシー・Cは次に述べている。「私たちにとっては初めての評議会の棚卸しの重要性を過小評価することはできない。しかし、棚卸しそのものは単なる情報であり、評議会の資産と負債の表に過ぎない。棚卸しの後に起こることが、評議会の現在そして未来にとって決定的なのである」ビッグブックの表現を借りるならば、「評議会の棚卸しは終えた。しかしそれは始まりに過ぎなかった。評議会のなすべきことが行われるだろうか？」

「ただ単なる自己評価だけでは不十分だと分かったのだから、私たちの愛とサービスの結びついた輪を通じて経験を分かち合うことによって、私たちは大きく前進するだろう。私たちの機構のあらゆる

レベルにおいて、任された僕として私たちの欠点を話し合うことによって、大きな利益がもたらされるだろう。私たちの評議会をよりよいものにしていくためによることで計画を作成しようというすべての仲間にとって、この評議会の棚卸しは役立つことだろう。私たちの明日のリーダーを迎え、励まそうではないか。彼らは私たちがまさに始めたこのやりがいのある課題を引き継いでくれるのだから」

キャシーはまとめとして次のように述べている。「回復・一体性・サービスのAAの80年を祝福しながら、私たちがいまだここにいるのかを見つめることによって、評議会の棚卸しをもまた祝おうではないか。私たちは基盤を強め、未来に向かって前進する旅をいま始めたのであるから」

#### パンフレット『愛とサービスの輪』を紹介します。

『愛とサービスの輪』は、ゼネラルサービスの仕組みを図解したパンフレットです。このパンフレットも他に違わずアメリカ/カナダで発行されたパンフレットの翻訳版です。

(A4三つ折り両面フルカラー 120円)

パンフレットを開くと、左から右に流れる2種類の矢印があり、その上の文字、「アルコールクを手助けするAAのシステム」「上に立つ者はいないし、規則もない」が目飛び込みます。また、矢印の下には「セントラル・オフィスはゼネラルサービスとは異なるものです — なぜなら異なるニーズに応えるものだからです。」と書かれています。



詳細は細かく、読み解くには少し時間と知識が必要かもしれませんが、このパンフレット(原文)に、大きな愛を感じた日本の一人のメンバーが、この詳細を知ってほしいと願い、

時間を掛けて翻訳したことを知ると、少し読み解く気持ちも生まれるかもしれません。

前述の「回復・一体性・サービスの80周年を祝うー私たちの未来への礎ー」と合わせてどうぞ一読ください。サービスを始めたばかりのメンバーにプレゼントするのも良いかもしれません。

また関係者の皆さまには、AAのシステムへのご理解を深めていただく一助としてご活用いただきますよう、お願いを申し上げます。

編集：ニューズレター編集委員会・発行：NPO法人AA日本ゼネラルサービス

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org> jso-1@fol.hi-ho.ne.jp

(月～金)10:00～18:00 (土・日・祝) 休